

- 村内の森林面積は約8割で、うち9割はスギ、ヒノキの人工林が占めている。
- 木材利用の低迷が続き、林業従事者の高齢化・所有者の村外転出が進み、林業環境は、悪化の一途をたどっている。
- これまで通りの森林管理は年々限界に迫っている中、このまま放置すれば村の林業はさらに衰退することが必至となっており、森林経営計画の推進に加えて、村が主体となった森林整備の必要性が高まっている。
- 健全な森林を次世代へつなぐため、今後取組を進めるに当たっては、まずは「林業環境の改善」という課題を解決する必要があることから、これまで十分な管理ができていなかった路網の改修を進めることで、森林作業の効率化を図り、森林経営計画に基づく適切な経営管理と森林経営管理制度に基づく森林整備等を進めていくこととしている。

□ 事業内容

1 林業施設整備補助事業

- 森林作業の効率化と林業の作業環境をより良く改善するため、施業場所へのアプローチに利用する林道を管理者（大阪府森林組合）が改修する際に、その補修材料費を補助。
- 上限額 1路線当たり200千円

【事業費】111千円（全額譲与税）

【実績】林道足谷線1路線 50.25㎡
植生マット等の設置



（植生マット設置前）



（植生マット設置後）

□ 事業スキーム

1 林業施設整備補助事業



□ 工夫・留意した点

- 村内林道の1路線の補修に係る原材料費の補助を実施することで、林業環境の改善につなげることができた。
- 改修や修繕に要する原材料費への補助とすることで、限られた予算を多くの路線の整備につなげていくよう配慮した。

□ 基礎データ

①令和元年度譲与額	4,660千円
②私有林人工林面積（※1）	3,404ha
③林野率（※2）	80.7%
④人口（※3）	5,378人
⑤林業就業者数（※4）	12人

※1：「森林資源現況調査（林野庁、H29.3.31現在）」より、

※2：「2015農林業センサス」より、※3、4：「H27年国勢調査」より

- ▶ 本村では近年、年間で約100人のペースで人口が減っており、少子高齢化の進捗が著しく、出生数が年間20人を切る状況にある。
 - ▶ 「子ども・生産年齢人口の減少」という課題に対応するにあたり、長年利用が低迷し環境悪化が進む地元産材を有効に活用する。
 - ▶ 平成30年度に千早赤阪村木材利用基本方針を改正し、役場等の公共施設の木質化、木製品の導入を推進していくこととした。
 - ▶ 千早赤阪村内で誕生した赤ちゃんに、地元産材である「おおさか河内材」を使ってお祝いすることで、村に愛着をもってもらい、若者世帯、子育て世帯の定住促進と同時に地元産材のPRを図る。
- ※「おおさか河内材」とは、千早赤阪村、河内長野市、河南町の森林で生産された木材をいう。

□ 事業内容

1 子育て出産祝い事業

- ・ 村内で誕生した赤ちゃんに出産祝品として、おおさか河内材を使った積木等の木製品を贈呈。
- ・ 令和2年4月にオープンした子育て支援拠点「ひまわり」の利用者におおさか河内材で作成した写真立てを贈呈。

【事業費】197千円（全額譲与税）

【実績】積木(20個) 写真立て(50個)



（スギとヒノキの積木）



（スギの写真立て）

□ 事業スキーム

1 子育て出産祝い事業



□ 工夫・留意した点

- ・ 小さいころから木製品に触れることで、木の良さを感じてもらうとともに、おおさか河内材の利用促進を図ることで、木材の普及啓発活動に取り組んだ。

□ 基礎データ

①令和元年度譲与額	4,660千円
②私有林人工林面積（※1）	3,404ha
③林野率（※2）	80.7%
④人口（※3）	5,378人
⑤林業就業者数（※4）	12人

※1：「森林資源現況調査（林野庁、H29.3.31現在）」より、

※2：「2015農林業センサス」より、※3、4：「H27年国勢調査」より